

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 4 月 1 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2012

課題番号：20560568

研究課題名（和文） 中学校空間における居場所の構造化 一 生徒の空間選択の仕組み一

研究課題名（英文） Study on Mode of Students Behavior and Spaces in Middle School

研究代表者

氏名：西村 伸也（NISHIMURA Shin-ya）

所属：新潟大学・自然科学系・教授

研究者番号：50180641

研究成果の概要（和文）：

生徒は時間軸の中で他の生徒や他集団との時間距離をつくり、さらに滞在する空間をずらし、移動経路上で柔軟に居場所を形成している。教科教室型中学校では授業間休みの生徒の行動には、HB・教室での時間のずれを利用した仕組みがあることが明らかになった。特別教室型中学校では、教室移動がない場合は教室周辺の空間を目的に応じて使い分けたりすみ分けを行い、教室移動がある場合は、移動経路上の空間で時間のずれを利用した居場所の形成を行っていた。

研究成果の概要（英文）：

The study found unique behaviours that students formed 3 to 4 groups and each group went in and out of their homebases because of adjustment to congestion of the homebases. In addition, these students' behaviors between classes were influenced by other grades. The study clarified that students tend to form their comfortable environments being conscious of the relations with other students using a time-lag and movement lag.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 20 年度	800,000	240,000	1,040,000
平成 21 年度	600,000	180,000	780,000
平成 22 年度	700,000	210,000	910,000
平成 23 年度	500,000	150,000	650,000
平成 24 年度	600,000	180,000	780,000
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・都市計画・建築計画

キーワード：計画論，学校建築，環境行動

### 1. 研究開始当初の背景

西村伸也・高橋鷹志は、建築計画・環境心理学の視点から、子どもの環境行動に関する研究を行っている。1999年から聖籠中学校の計画を実際に進めるために、千葉市立打瀬中学校・三春市立桜中学校等の調査を行ってきた。聖籠中学校の竣工後は、聖籠中学校を対象にして、教科センターでの活動内容・ホームベースの使われ方・教

科教室とホームベースへの移動等の詳細な調査を毎年持続的に行っている。例えば、短い休み時間に学校中を歩き回って教室に授業の直前に入っている生徒、ホームベースに入らず教室まわりに佇んでいる生徒、複数の集団の間を動き回り接触している生徒等、様々な居場所選択の行動が捉えられた。

これらの調査研究は、生徒個人とクラス集団との接触を適切に保持したり、個人がクラ

ス集団との距離を保ったりすることで、そのコンフリクトを回避する巧みな仕組みであると捉えられる。生徒が居場所を選択するときには、その個人や集団の状況に応じた特徴的な作法があり、教室から教室への移動時に、時間をずらして集団との距離を意識的にとっている生徒の行動は、生徒の行動を時間軸の中で捉えることの重要性を改めて想起させる。このような生徒の空間行動特性は、まさに生徒がもっている居場所を形成する仕組みであり、学校環境になじむための生態的な作法であると考え、これらを解明して新たな学校空間のシステムを計画提案するために本研究を企図した。

## 2. 研究の目的

中学校には、生徒の学習空間としてだけでなく、一日の多くの時間を過ごす生活空間としての環境として、生徒一人ひとりへの細やかな教育・生活空間の整備が求められている。そのため、生徒にとって個人・集団との関係を良好に保つための空間が学校内に計画されていくべきであると考え。教科教室型中学校の生徒は、授業間休みの教室移動の際に、ホームベース、オープンスペース、教室などの空間でそれぞれの時間を過ごし、同学年や他学年の生徒と教員などの行動の影響も受けながら複雑な環境の中で生活している。このような学校環境の中で、生徒は多様な集団形成や居場所形成を行っていると考えられる。

本研究は、これら生徒の集団形成・居場所形成に焦点をあてて、教科教室型中学校の空間と生徒の行動特性との関係を捉えることを目的としている。

## 3. 研究の方法

研究方法として、本研究の目的に沿ってアンケート調査と行動観察調査を組み合わせた。これらの調査から、生徒の教室移動の中で形成される集団の規模、集団同士の関係、移動の経路の中での居場所等の特徴を捉え、それらを分析することで生徒の移動時における他の生徒との距離のとり方の特徴を明らかにすることができる。特に、生徒の移動時に形成される集団とその構成を時系列で整理して、他の集団との空間的・時間的距離の保ち方や集団の変容の仕方を分析するという方法をとった。

## 4. 研究成果

生徒は時間軸の中で他の生徒や他集団との時間距離をつくり、さらに滞在する空間をずらして、移動経路上で柔軟に居場所を形成している。教科教室型中学校の授業間休みの生徒の行動には、HB・教室での時間のずれを利用した仕組みがあることが明らかになっ

た。このような生徒が行っている教室間の移動では、時間をずらすことで帰属する集団・他の集団との関係やコンフリクトを巧みに調整していること、HBが移動の時間を調整して帰属する集団を変える機能を持っていること等が明らかになった。これらは、移動の時間と空間の中で形成される居場所のつくり方とも考えられ、教科教室型の中学校では、一つの場所でも時間をずらすことで複数の生徒、小集団に占有される異なった居場所が計画できること、HBに複数の個人や小集団が居場所を形成できる空間を計画できること、移動の経路により多様な居場所となる空間を計画する可能性等が、新たな教科教室型の学校空間を計画する示唆となると思われる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

時間・移動のずれを利用した生徒の行動特性：教科教室型中学校における授業間休みの生徒の居場所選択に関する研究 (1)  
西村伸也・高橋鷹志・棒田恵 他 4 名  
日本建築学会計画系論文集 2013 年 8 月  
査読有, DOI(掲載予定)

[学会発表] (計 11 件)

- ① 教科教室型中学校における授業間休みの生徒の居場所選択に関する研究, 長谷川千紘・西村伸也他, 日本建築学会, 2009 年日本建築学会北陸支部大会学術講演会, 富山大学, 2009. 7. 12
- ② 教科教室型中学校における生徒の居場所選択に関する研究 - 授業間休みにおける生徒の行動特性について -, 長谷川千紘・西村伸也他, 日本建築学会, 2009 年日本建築学会大会 (東北) 学術講演会, 東北学院大学, 2009. 7. 20
- ③ 教室・ホームベースでの入れ替え時における時間・移動のずれに関する研究 : 教科教室型中学校における授業間休みの生徒の行動特性について, 邱テイ・西村伸也・高橋鷹志他, 日本建築学会, 2010 年日本建築学会大会 (北陸) 学術講演会, 富山大学, 2010. 7. 20
- ④ 時間・移動のずれを利用した生徒の行動特性に関する研究 : 教科教室型中学校における授業間休みの生徒の居場所選択について, 渡辺郁・西村伸也・高橋鷹志他, 日本建築学会, 2010 年日本建築学会大会 (北陸) 学術講演会, 富山大学, 2010. 7. 20
- ⑤ 教科教室型中学校のオープンスペースにおけるレイアウト及び掲示内容の変更に関する研究

伴う生徒の行動変化に関する研究, 倉田奈帆・西村伸也・高橋鷹志他, 日本建築学会, 2010 年日本建築学会大会 (北陸) 学術講演会, 富山大学, 2010. 7. 20

- ⑥ 教科教室型中学校における生徒の居場所選択に関する研究 : 教室移動時のホームベース周辺の行動について, 松田徳子・西村伸也他, 日本建築学会, 2010 年日本建築学会北陸支部大会学術講演会, 新潟工科大学, 2009. 7. 18
- ⑦ 教科教室型中学校における授業間休みの生徒の行動に関する研究 : 移動のずれを利用した生徒の行動特性, 長谷川千紘・西村伸也他, 日本建築学会, 2010 年日本建築学会北陸支部大会学術講演会, 新潟工科大学, 2009. 7. 18
- ⑧ 教科教室型中学校における生徒の行動に関する研究-教科の広場とホームベースにおける生徒の行動特性-, 神田結衣・西村伸也・高橋鷹志他, 日本建築学会, 2012 年日本建築学会北陸支部大会学術講演会, 信州大学, 2012. 7. 22
- ⑨ 教科教室型中学校における生徒の行動についての研究 社会の広場とホームベースにおける生徒の行動特性, 神田結衣・西村伸也・高橋鷹志他, 日本建築学会, 2012 年日本建築学会大会 (東海) 学術講演会, 名古屋大学, 2012. 7. 20
- ⑩ 特別教室型中学校における生徒の行動特性に関する研究 その1, 柿崎恵子・西村伸也・高橋鷹志他, 2013 年日本建築学会大会 (北海道) 学術講演会, 北海道大学, 2013. 7. 20 (予定)
- ⑪ 特別教室型中学校における生徒の行動特性に関する研究 その2, 神田結衣・西村伸也・高橋鷹志他, 2013 年日本建築学会大会 (北海道) 学術講演会, 北海道大学, 2013. 7. 20 (予定)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

西村 伸也 (NISHIMURA Shin-ya)  
新潟大学・自然科学系・教授

研究者番号 : 50180641

### (2) 研究分担者

高橋 鷹志 (TAKAHASHI Takashi)  
東京大学・大学院工学研究科・名誉教授

研究者番号 : 20024234

### (3) 研究協力者

Philippe Bonnin 教授  
フランス CNRS  
(国立中央科学研究所) 所長  
建築文化社会学者